

おこおりのとしよかん

25周年記念版



小郡市立図書館

表紙のイラスト

小郡市立図書館のキャラクター「ラックン」

堅苦しいイメージのある読書をもっと気楽に楽しんでもらいたいとの思いが、プカプカと水面に浮かぶラッコの自由なイメージと重なり、昭和 62 年の開館にあわせてこのキャラクターが生まれました。

デザインは、小郡市の職員 伊東洋子さんによるものです。当時、長崎バイオパークまでスケッチに行って考えてくれました。

平成 24 年に開館 25 周年を記念して名前を募集し、小郡市在住の小郡小学校 3 年生 坂田直樹君、三国小学校 2 年生 高木優君が考えた「ラックン」という素敵な名前がつけられました。

四半世紀から 半世紀を めざして

小郡市立図書館は、昭和62年11月3日（文化の日）に開館して、早いもので25年を迎えました。昨年、平成24年11月18日（日）には、多くの市民の皆様にご来場いただき、開館25周年記念行事を開催することができ、お祝いのメッセージなどもいただきました。このことは、今まで、図書館を愛し、利用していただいた皆様はもちろん、各方面から応援していただいた多くの関係者の皆様のお陰と感謝しています。

図書館では25年前から、利用者の皆様に一冊でも多くの本を借りていただくことを念頭に取り組んでいます。生涯学習社会や情報化社会の到来とともに、図書館の果たす役割も読書中心から、居場所や心の安らぎの場、情報の提供へと大きく変容してきました。また、近い将来には、電子書籍などの電子媒体も貸し出すこととなるでしょう。

小郡市では、このような時代の変化に対応したまちづくりを行う指針として、平成23年3月に平成32年度までを期間とした第5次小郡市総合振興計画を策定しました。その中では、図書館機能の充実、読書環境の整備・充実を主要施策に掲げて、「読書のまちづくり日本一」を目指しています。また、同年2月に策定しました第2次小郡市子ども読書活動推進計画では、「読書は心のビタミン」を基本理念に、家庭・地域、幼稚園・保育所（園）・地域子育て拠点、学校、図書館で子どもの読書活動推進のための具体的な取り組みを関係機関と連携しながら進めているところです。

そして、民主主義社会を支え、小郡市の学校教育・社会教育・家庭教育をつなぎ、発展させる教育機関としての役割を果たす図書館として、「すべての市民のニーズ」「すべての学校のニーズ」に答えられるように挑戦してまいります。

これからの25年後、半世紀を迎えた時に、本の形態や情報のネットワークがどのように変容しているかわかりませんが、「図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、利用者に提供する」という図書館の目的は変わらないと思います。

最後になりましたが、小郡市立図書館は、今後も「ひらかれた図書館―親しみやすく、入りやすく、いこいとやすらぎのある図書館」を基本方針にサービスに努めてまいりますので、皆様方のご理解とご支援、ご利用をよろしくお願いいたします。

四半世紀から半世紀をめざして。

小郡市立図書館
館長 永利 和則

小郡市立図書館 開館二十五周年と 記念冊子刊行に 寄せて

小郡市立図書館が一九八七年十一月の開館以来二十五周年を迎え、それを機として記念冊子を刊行されるにあたり、お祝いと励ましのメッセージをお届けします。

貴図書館は、「すべての市民に、ひらかれた図書館」を活動の基本に据え、人口六万人前後の小規模都市の図書館群にあつて、貸出密度（人口当たり年間貸出冊数）などサービスの実績において常に先進的な成果を上げてこられました。図書館づくりとしてはやや後発の部類に属し、行財政改革の進行など教育・文化事業の推進にとつて厳しさが増す時代ではありましたが、それまでの先進各館の経験を活かし、「市民の図書館」を着実に、かつ意欲的に実践されてきた、と承知しております。

とりわけ子どもに対する活動に力を注いできたことが注目されます。十か月児検診と連動したブックスタート事業をいち早く取り上げ、学校と連携した児童・生徒の読書振興、学校図書館支援を積極的に進めてこられました。文部科学省の資源共有モデル事業、学校図書館支援センター推進事業に参加し、その成果を実態づくりに施策化してこられたことが印象に残ります。学校（図書館）を支援することは、市立図書館の活動として当然の課題ですが、子どもたちの豊かな学びや読書の環境を整備し、さらに学校教育と協働して学びを創りだしていくという展開は、今後の図書館運営の基本に置いて追求して行くことが必要でしょう。

学校を含む図書館ネットワークの整備、高齢者や入院患者など図書館が使いにくい人々への能動的なサービス、市役所各課との連携、近隣自治体との協力など、図書館の働きを組織的に広げ、充実したものとすこれまでの実践が、さらに持続し展開されることを期待します。

管理運営の在り方の面では時代を反映してご苦勞も多く、公社による運営委託、指定管理者への委託など、苦衷の選択、さまざま模索を重ねられたことがうかがえます。そのなかで、現代社会における図書館のあり方を真摯に探ってこられた経験は、他の自治体にも多くの示唆や教訓を提供していただいております。

二十五周年を機に、市民の期待と検証との緊張関係をより一層高め、「市民の図書館」づくりを豊かに展開されることを期待いたします。

(社)日本図書館協会
理事長 塩見 昇

小郡市立図書館 25年のあゆみ



建物の設計協議は、設計を行う由良滋教授率いる九州芸術工科大学のチームと市の担当者として何度も行われた。時には、場所や時間をかえ、近隣の図書館員を交えて意見を聞きながら熱心に協議を重ねた

(昭和60年頃 現野田宇太郎文学資料館長の自宅にて)

昭和45 (1970) 年

4月 町中央公民館新設により、公民館図書室を設ける

昭和47 (1972) 年

4月 市制施行

昭和59 (1984) 年

7月 小郡市松崎出身の詩人、野田宇太郎氏死去

11月 故野田宇太郎氏の遺言により、氏の蔵書を市へ寄贈決定

12月 九州芸術工科大学に文化会館・図書館・野田宇太郎文学資料館

を内容とする建設基本計画の検討を委託（3月提出）

昭和60 (1985) 年

4月 小郡市ふるさとカルチャーセンター（仮称）建設委員会

（会長・助役）を設置、以降随時11回開催。

九州芸術工科大学により基本設計開始

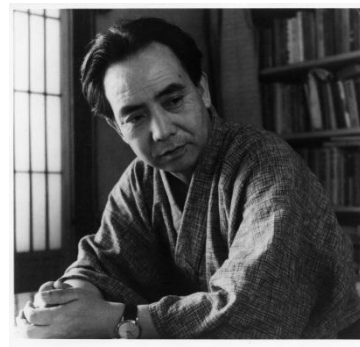
12月 小郡ロータリークラブより移動図書館車寄贈

昭和61 (1986) 年

3月 施設の総名称を公募により「小郡市民ふれあい広場」に決定

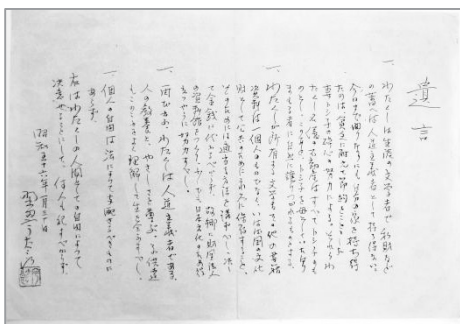
4月 小郡市民ふれあい広場設置準備室を設ける

5月 小郡ロータリークラブによる一人一冊運動の図書寄贈



野田宇太郎氏
詩人、編集者、文学研究家。
生誕の地 小郡市松崎には、
野田の詩「水鳥」の詩碑が
建つ

野田宇太郎氏の遺言



遺言には、「わたくしの所有する文学書その他の書籍資料は、一個人のものでなく、いはば国の文化財として公共のために永久に保存すること。そのためには適当な方法を講ずべし。決して金銭に代ふるべからず。故郷に財団法人の資料館をつくり、少しでも日本文化のため役立つやうに努力すべし」と書かれている

千葉県浦安市立図書館に職員の派遣研修を開始。

以後、5名を各々一ヶ月派遣

8月 本体建設工事着工

昭和62 (1987)年

7月 移動図書館車「しらさぎ号」運行開始。

ステーション数は、当初12ヶ所

9月 本体建設工事竣工。市体育館から中央公民館に公民館図書室を復帰。

西鉄小郡駅前には返却ポストを設置。以後、三国校区公民館、西鉄三国が丘駅前などに順次設置。現在6ヶ所

10月 小郡市民ふれあい広場設置準備室を文化会館、図書館に機構変更し配置

11月 3日、市制施行15周年記念式典とあわせて、小郡市民ふれあい広場

落成式典を開催。文化会館、図書館、野田宇太郎文学資料館を開館

昭和63 (1988)年

2月 第1回小郡市図書館協議会を開催

7月 「小郡市民ふれあい広場」館報発行。以降年4回発行。60号終刊

10月 移動図書館車による病院貸出開始。現在3ヶ所

11月 総貸出冊数が25万冊達成。開館一周年記念文化講演会
(講師 木元教子氏)



オープン当初は利用申込みをする人で混雑した



建設中の小郡市民ふれあい広場



第1回 図書館協議会



初代 移動図書館車「しらさぎ号」

平成元 (1989) 年

2月 移動図書館車「しらさぎ号」新車買換

3月 久留米・鳥栖・小郡・基山三市一町の図書館協力発足。

連絡車運行開始

4月 福岡県立図書館配本車運行開始。団体貸出開始。

8月 中華人民共和国浙江省余姚市図書館を初代館長 林雅康訪問

10月 第一回野田宇太郎生誕祭。以後、毎年野田の誕生月10月に開催

11月 第21回福岡県・小郡市読書推進大会開催

平成2 (1990) 年

8月 野田宇太郎文学資料館企画展「野田宇太郎・丸山豊二人展」(〜10月)

10月 中華人民共和国浙江省余姚市図書館を職員が訪問

平成4 (1992) 年

3月 野田宇太郎文学資料館企画展「北原白秋展」(〜4月)

10月 野田宇太郎文学資料館企画展「五足の靴紀行展」(〜12月)

平成5 (1993) 年

10月 野田宇太郎文学資料館企画展「檀一雄展」(〜12月)



中華人民共和国浙江省余姚市図書館見学の様子。
小郡市から絵本など日本の本を贈り、余姚市からは中国語の図書の寄贈を受けた



第21回福岡県・小郡市読書推進大会で
講演をする 児童文学者 代田 昇氏

平成 6 (1994) 年

8 月 詩人 丸山豊氏を偲ぶ「白鳥忌」開催

野田宇太郎文学資料館企画展「丸山豊と母音の詩人たち展」(～11月)

平成 7 (1995) 年

10 月 野田宇太郎文学資料館所蔵展

「木下杢太郎没後50年 きしのあかしや展」

平成 8 (1996) 年

3 月 野田宇太郎文学資料館企画展

「新・九州文学散歩 第一回 北九州」(～5月)

平成 9 (1997) 年

3 月 野田宇太郎文学資料館企画展

「新・九州文学散歩 第二回 筑紫路」(～5月)

10 月 野田宇太郎文学資料館企画展

「詩人野田宇太郎と建築家谷口吉郎展」(～12月)

11 月 開館10周年記念文学講演会(講師 沢木耕太郎氏)

平成 11 (1999) 年

3 月 野田宇太郎文学資料館企画展

「新・九州文学散歩 第三回 京築・筑豊」(～5月)

4 月 小郡市立図書館ホームページ開設



開館10周年記念講演会で講演する、作家沢木耕太郎氏。「いま、話したいこと」と題して、当時取材が進められていた檀一雄のことなど、作品にまつわるエピソードが披露された



「野田宇太郎文学資料館企画展 第1回 北九州」オープニングセレモニー、テープカットの様子。野田宇太郎の九州文学散歩を追体験するこの企画展は、平成23年度に開催の「第10回 奄美・沖縄の文学」まで続いた

平成12 (2000) 年

2月 野田宇太郎文学資料館企画展

「新・九州文学散歩 第四回 佐賀の文学」(5月)

4月 久留米広域圏内在住者への貸出開始。開館時間を18時まで延長

10月 毎週金曜日のみ20時まで開館時間延長

平成13 (2001) 年

5月 野田宇太郎文学資料館企画展

「新・九州文学散歩 第五回 長崎の文学」(8月)

小郡市「子どもの読書」関連団体連絡協議会設立

平成14 (2002) 年

3月 移動図書館車「しらさぎ号」新車買換(3台目)

4月 財団法人 小郡市公園ふれあい公社に編入

学校巡回配本車運行開始

「子どもの読書活動優秀実践図書館」として文部科学大臣表彰を受ける

5月 移動図書館車巡回時に丸山病院病棟内での貸出を開始

7月 市制施行30周年・開館15周年記念 野田宇太郎文学資料館企画展

「白秋童謡の世界展」(12月)

平成15 (2003) 年

1月 インターネットコーナー設置(端末4台)

小郡市民 館報第51号

ふれあい広場

小郡市大森井136-1 図書館 TEL72-4319 文化会館 TEL72-3737 平成12年10月1日

金曜の夜は図書館で!!

開館時間が夜8時まで延長!!

今年の4月から、図書館の開館時間が夕方6時までとなりまして、市外に通勤されている方にとっては、まだまだ利用しにくい時間帯です。そこで、図書館では、10月より毎週金曜日 夜8時まで開館時間を延長します。

遅に1冊という限られた日にちではありますが、週末のゆったりした時間のなか、仕事帰りに、秋の夜長に、図書館の本を手にとられてみませんか。

お願いします

館内での静けさを壊さないよう、現在では、日曜日を含む図書館が主催ですが、市外図書館の建設が中止ではあるものの、このように静かにおいでください。それ以外にも、本棚を多く置いて、一冊でも多く利用者の要求に応えられるよう努力していきますので、ご理解ご協力をお願いいたします。



子どもの読書活動の実践が評価され、文部科学大臣より表彰を受けた

開館時間の延長を知らせる館報

2月 10か月児健診でブックスタート開始

3月 開館15周年記念講演会（講師 絵本作家 飯野和好氏）

4月 館報を小郡市公園ふれあい公社情報紙「コンタクト」に変更

7月 来館が困難な人を対象にした、宅配サービスを開始

平成16 (2004)年

3月 野田宇太郎文学資料館企画展

「新・九州文学散歩 第六回 熊本の文学」(5月)

4月 月曜休館日と祝日が重なった時の翌日休館を廃止

9月 野田宇太郎文学資料館企画展「筑紫の詩人たち」(11月)

11月 第19回国民文化祭ふくおか2004 文芸祭現代詩大会開催

詩のボクシング・小中学生大会開催

平成17 (2005)年

4月 祝日を開館

10月 新図書館電算システムによる業務の開始

詩のボクシング・小中学生大会開催

11月 野田宇太郎文学資料館企画展

「新・九州文学散歩 第七回 大分の文学」(1月)

平成18 (2006)年

4月 指定管理者制度による運営を開始（小郡市公園ふれあい公社を指定）。

月曜休館日のうち、第2・4・5月曜を開館



詩のボクシング国民大会 小中学生大会の様子。
市内の小中学校から出場した選手たちは、自作の詩にパフォーマンスなどを加えながら朗読した



平成15年2月に小郡市健康センターで始まったブックスタートは、翌年、7月にオープンした小郡市総合保険福祉センター「あすてらす」に会場を移した

平成 19 (2007) 年

1月 野田宇太郎文学資料館企画展

「新・九州文学散歩 第八回 宮崎の文学」(5月)

10月 「ブックスタート・フォローアップイベント in ふくおか」開催

12月 野田宇太郎文学資料館企画展「五足の靴百年展」(2月)

平成 21 (2009) 年

3月 野田宇太郎文学資料館企画展

「新・九州文学散歩 第九回 鹿児島島の文学」(5月)

4月 指定管理者制度の見直しにより、市の直営(教育部図書館)による運営を開始

7月 久留米市・鳥栖市・基山町在住者への貸出を開始

10月 野田宇太郎誕生百年特別企画「野田宇太郎文学散歩」(1月)

平成 23 (2011) 年

3月 新図書館電算システム(学校図書館とのシステム統合)による業務の

開始。野田宇太郎文学資料館企画展「新・九州文学散歩 第十回

奄美・沖縄の文学」(5月)

6月 WEB(ウエブ)サービス開始

平成 24 (2012) 年

1月 マルチメディアDAISY、赤ちゃん絵本パック貸出開始

11月 18日、開館25周年記念「ふれあい広場フェスティバル」を開催



NPO 法人ブックスタートとの共催で行われた「ブックスタート・フォローアップイベント in ふくおか」は、事業に関わる人やこれからブックスタートを始めようと考えている自治体の職員など、県内外から多くの人が集まった。写真はシンポジウムの様子



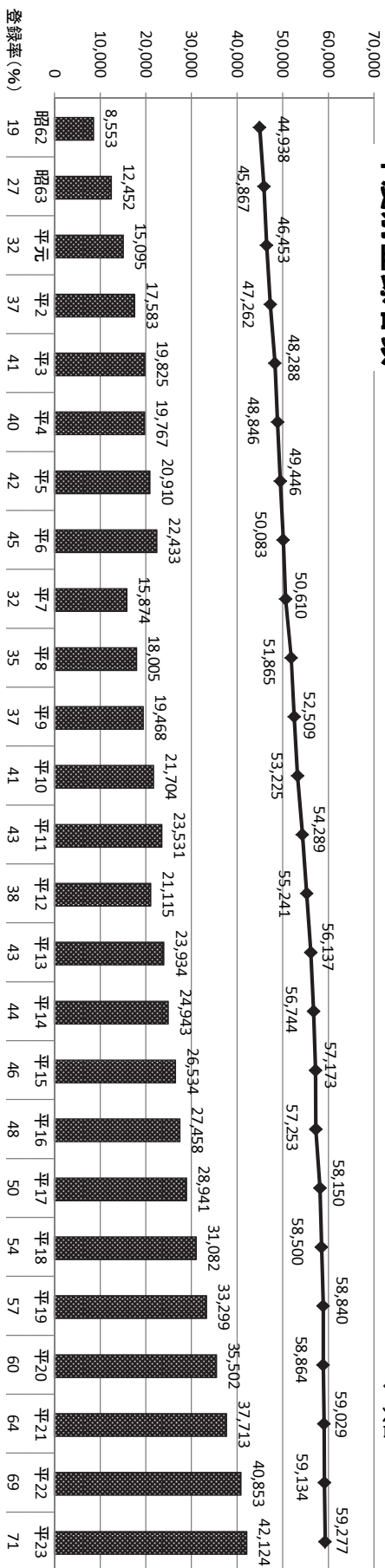
開館 25 周年を記念した「ふれあい広場フェスティバル」では、お祝いの餅つきや図書館キャラクターの命名式などさまざまな催しで賑やかな1日となった

数字でみる 小郡市立図書館の 25 年

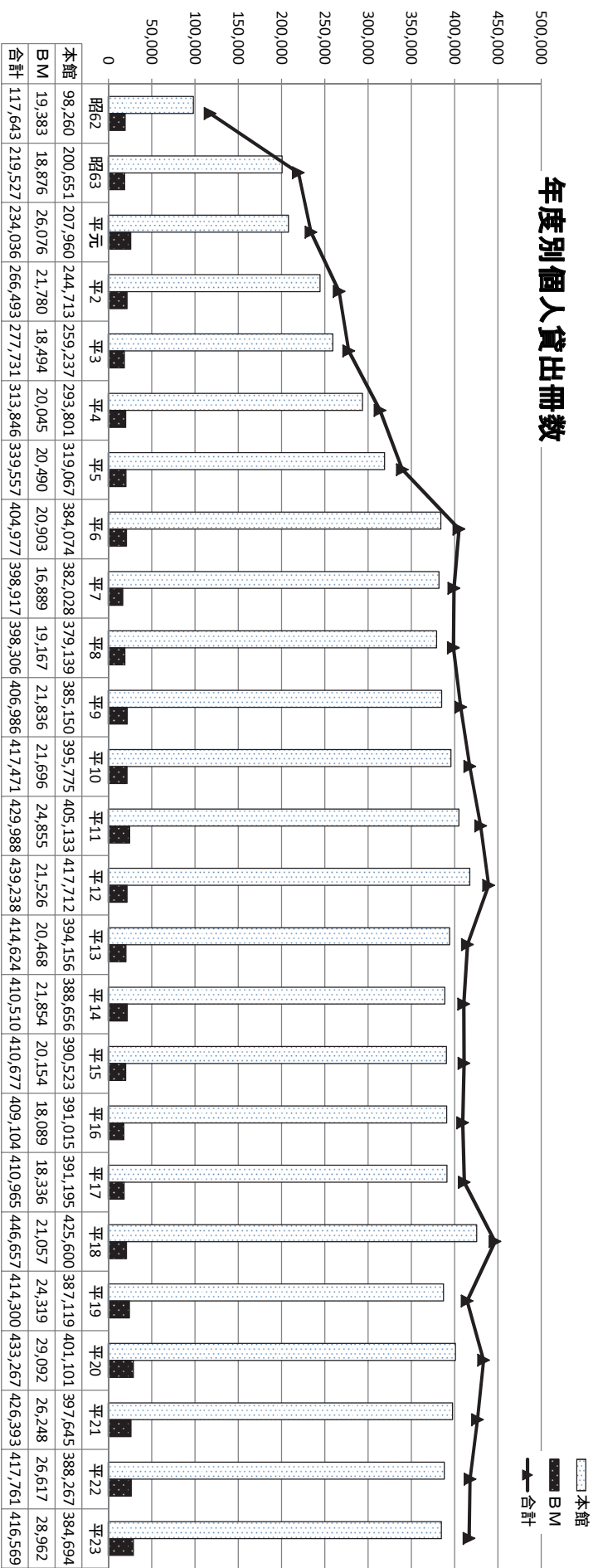


開館当初、大勢の市民に利用され、ほとんどの書架がこの
ような状態だった。不足する本を福岡県立図書館から借り
て補った（昭和 62 年 11 月）

年度別登録者数



年度別個人貸出冊数

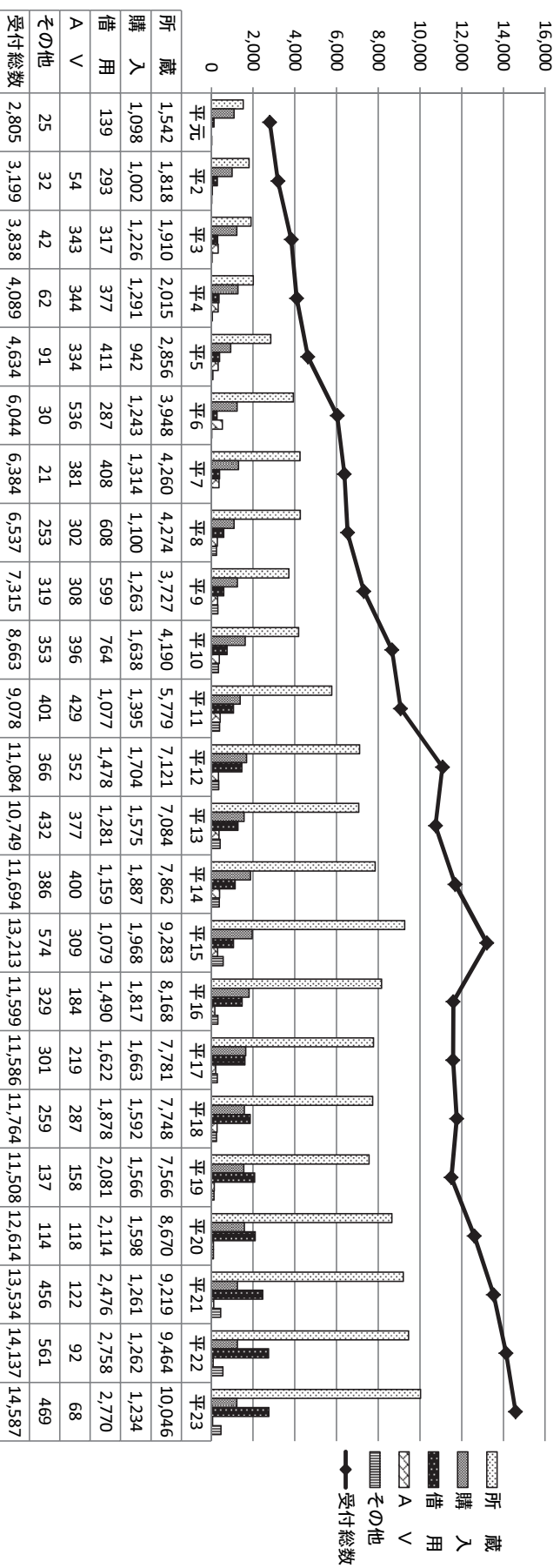


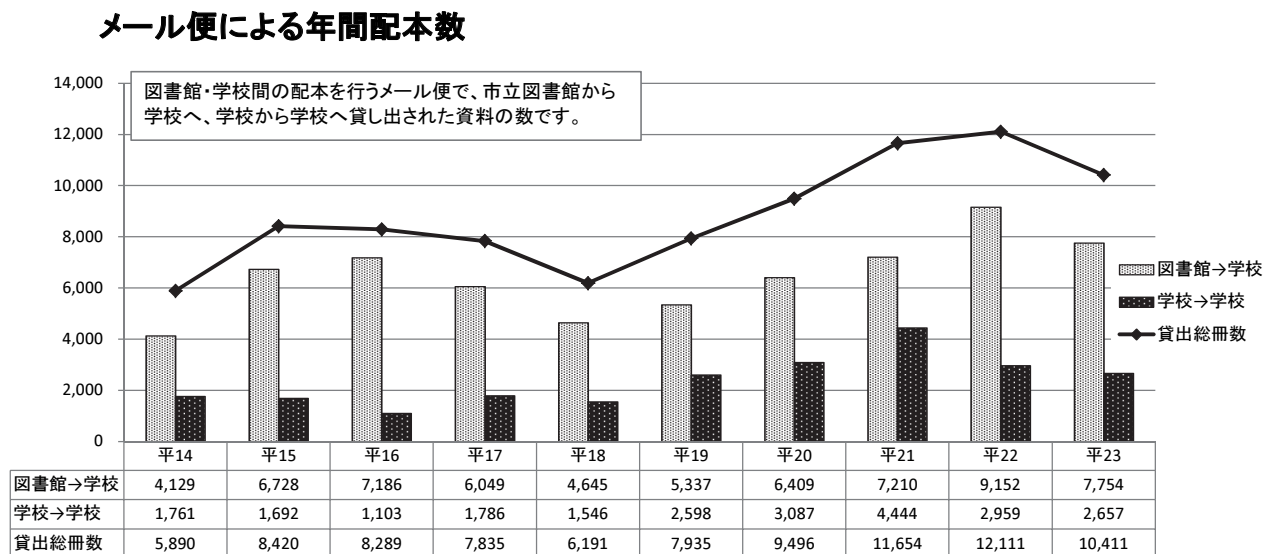
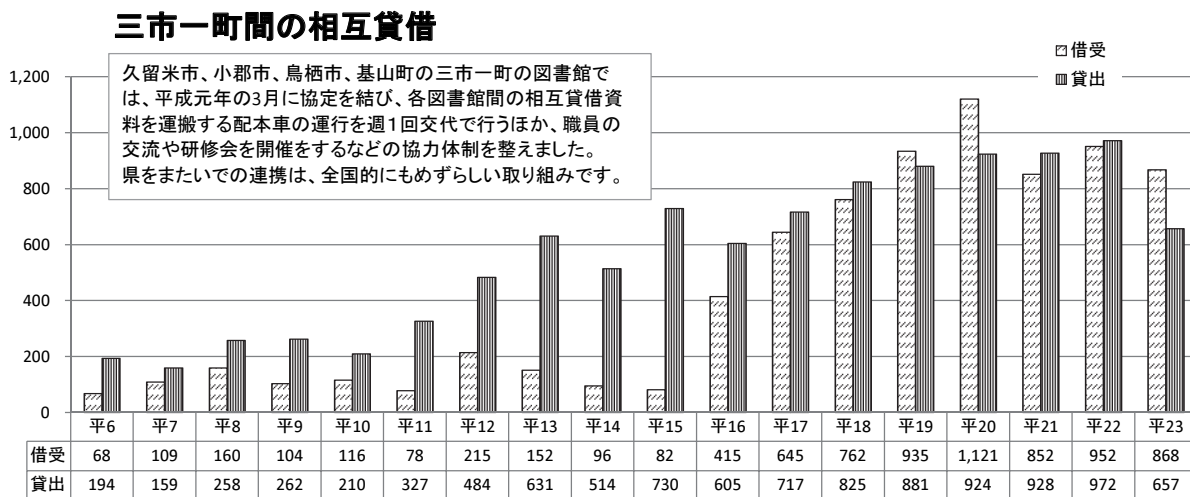
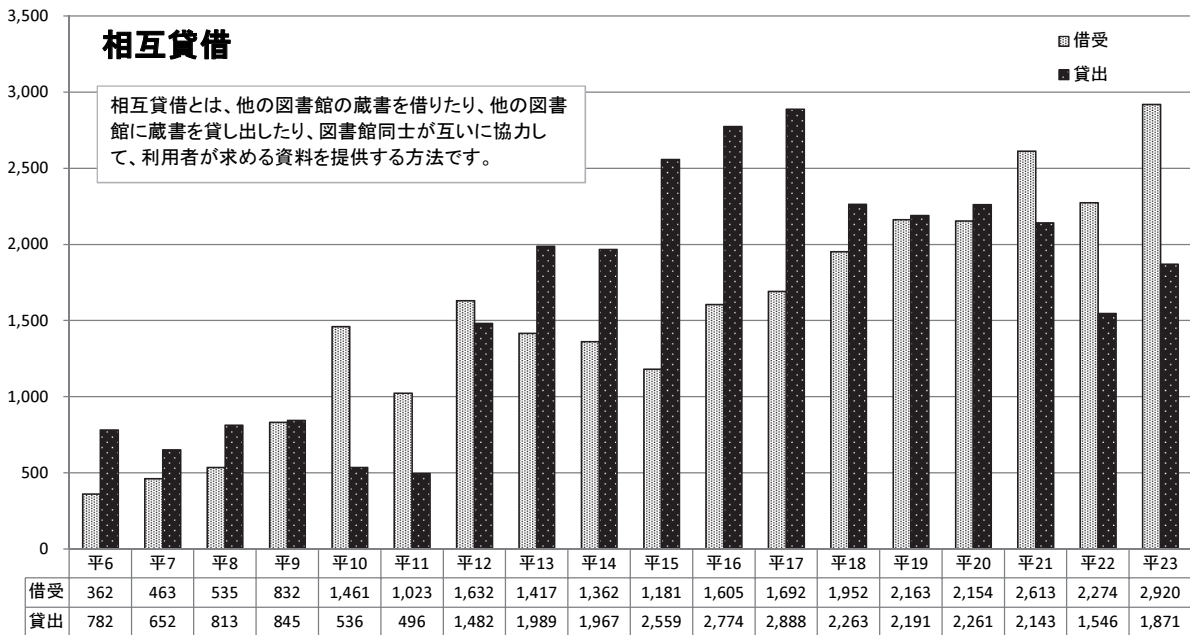
人口1人あたりの貸出冊数 年間の貸出冊数を、人口1人あたりで換算した冊数です。小郡市の平均は全国平均を上回っていることがわかります

	昭62	昭63	平元	平2	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20	平21	平22	平23
全国	2.00	2.04	2.09	2.17	2.30	2.41	2.52	2.86	3.08	3.21	3.36	3.50	3.94	4.03	4.10	4.20	4.40	4.68	4.72	4.73	4.89	5.01	5.29	5.44	5.49
小郡	2.62	4.79	5.04	5.64	5.75	6.42	6.86	8.08	7.88	7.68	7.75	7.84	7.92	7.95	7.39	7.23	7.18	7.12	7.07	7.63	7.04	7.36	7.22	7.06	7.02

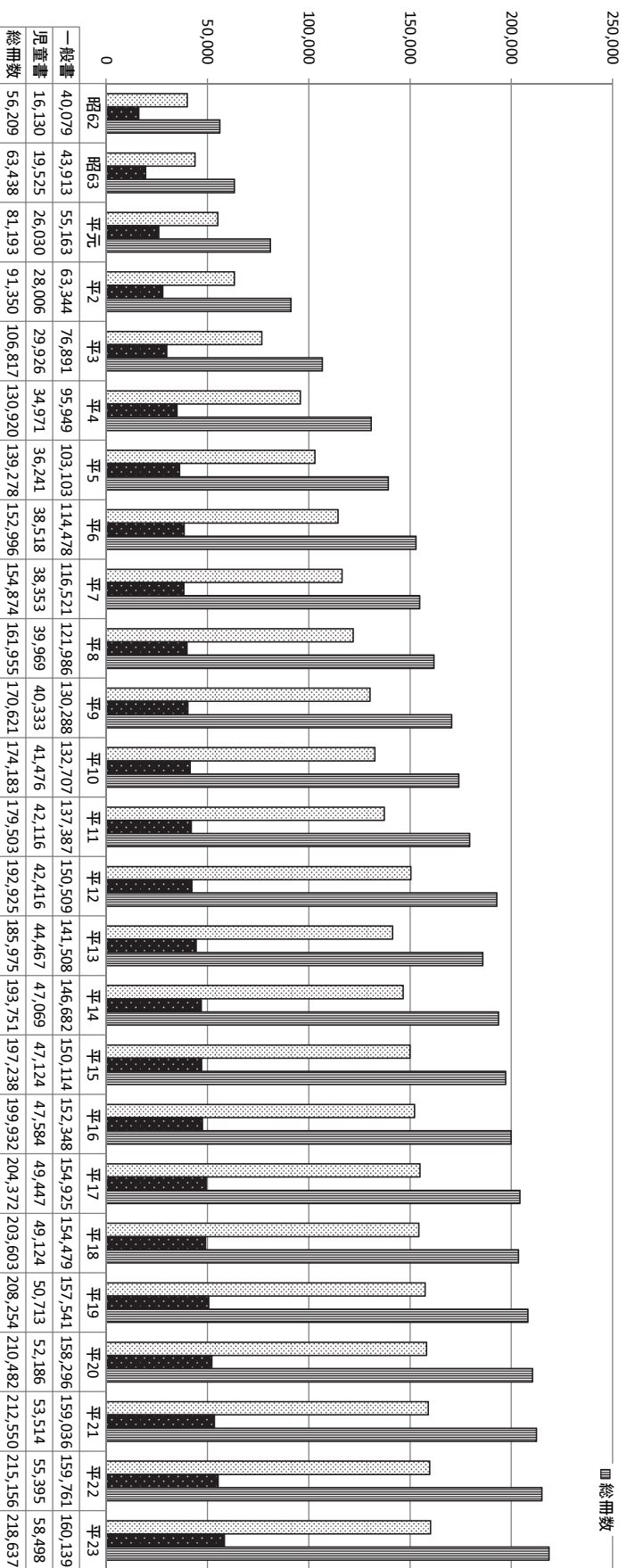
リクエスト受付冊数

図書館で希望する本などが貸出中であつたり、所蔵がない場合、リクエスト(予約)をすることができます。受付けたリクエストは、所蔵の有無や出版年、本の内容などによって準備する方法が異なります。
この統計では、準備の方法別の冊(点)数を記しています。
「借用」は他の図書館から取り寄せた資料、「その他」は資料が入手できなかった資料や準備ができてから不要になり取り消された資料の数、「AV」は、所蔵しているビデオ・CD・カセット・DVDです。





蔵書冊数



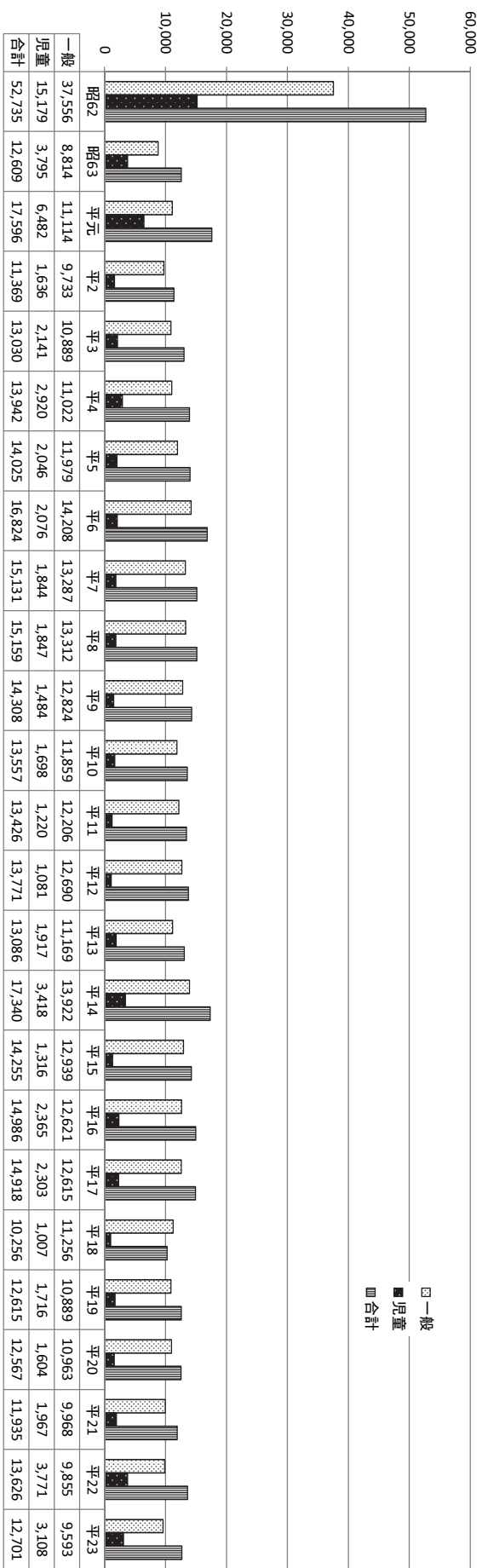
学校支援用図書の数

小郷市に開発センターをもつ総合化学品メーカー「ダウケミカル日本」より寄贈いただいた図書と、教科書で紹介されている図書をセットにした「教科書セット」は主に学校支援のために活用しています。

分類	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	絵本	計
一般	8	3	7	14	101	38	6	21	4	8		210
児童	35	26	54	87	357	198	45	68	8	128	141	1,147
教科書セット分	一般	2	4	10	7	10	2	4	14	33		218
児童	4	2	4	24	65	13	15	17	12	322	147	625

2013.2現在

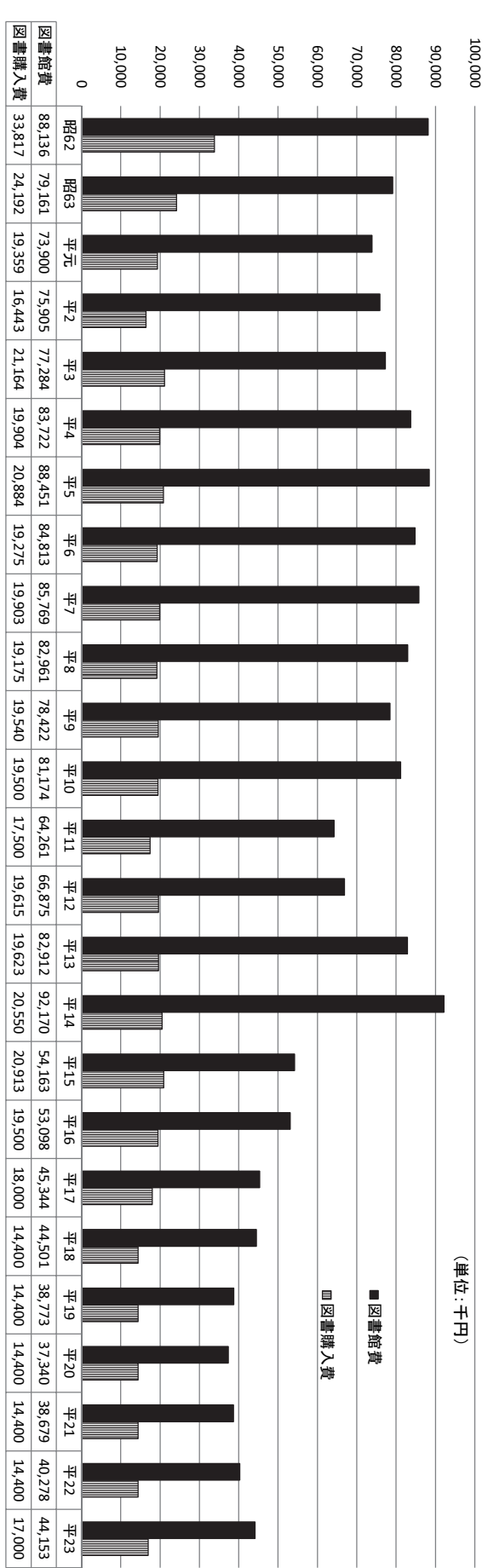
図書購入冊数



一般	37,556	8,814	11,114	9,733	10,889	11,022	11,979	14,208	13,287	13,312	12,824	11,859	12,206	12,690	11,169	13,922	12,939	12,621	12,615	11,256	10,889	10,963	9,968	9,855	9,593
児童	15,179	3,795	6,482	1,636	2,141	2,920	2,046	2,076	1,844	1,847	1,484	1,698	1,220	1,081	1,917	3,418	1,316	2,365	2,303	1,007	1,716	1,604	1,967	3,771	3,108
合計	52,735	12,609	17,596	11,369	13,030	13,942	14,025	16,824	15,131	15,159	14,308	13,557	13,426	13,771	13,086	17,340	14,255	14,986	14,918	10,256	12,615	12,567	11,935	13,626	12,701

図書館費と図書購入費

図書館の運営費に定める図書の購入費です



(単位:千円)

暮らしに役立つ図書館を目指した さまざまなサービス



いつでも どこでも だれでも
図書館を必要としている人がいます
丸山病院での貸出の様子

子どもたちのすこやかな成長を願って

児童サービス

赤ちゃんに
愛情のこもった語りかけを

開館して10年を過ぎた頃から、赤ちゃん連れの若いお母さんの姿を見かけることが多くなりました。その頃から少しずつですが、赤ちゃんや乳幼児を対象とした絵本も出版され始めました。

小郡市立図書館の絵本のコーナーは対象年齢別にわかれていませんので、乳幼児向けの絵本や小さなお子さんを持つ保護者の方におすすめる子どもの本に関するブックリスト、わらべうたの本などを集めた「0・1・2赤ちゃん絵本のコーナー」を作りました。

また、二〇〇〇年の「子ども読書年」にブックスタートが紹介されると小郡市でも、ブックスタートの先進地である東京都杉並区や北海道恵庭市の事例を研究し、健康課と図書館の職員とで、近隣で



6冊のプレゼント用絵本は、読んでもらったあと、気に入った2冊を選ぶ

ブックスタートに取り組んでいる長崎県諫早市、熊本県植木市を見学に行きました。そして検討を重ねた結果、10か月児健診時に、絵本2冊と子育て支援情報や赤ちゃん絵本のリストなどを布のバックに入れた「ブックスタートパック」を手渡すことが決まりました。

ブックスタートは、絵本を読むのではなく、赤ちゃんと大人と一緒に絵本を開く楽しいひとときを分かち合うことを目的にしていますので、小郡市ではそのメッセージがしっかり伝わるよう、集団で説明をするのではなく、赤ちゃんと保護者ひと組ひと組に、絵本を読み説明をする方法を選びました。

また、ブックスタートの効果を検証するために、福岡市にある福岡女学院大学の協力を得て、平成14年・15年度生まれの子どもと保護者を対象に、ブックスタート受診前後、お子さんの1歳半、3歳時、就学時前、小学3年生とアンケート調査を行っています。

その調査結果は、図書館のHPで公開しています。

家読（うちどく）運動の推進

子どもが本や読書に興味をもつためには、まわりの大人の支援がかかせません。小郡市では、さまざまな方面で子どもの読書活動を支援してきましたが、家庭での読書が最も大切であると考え、家庭での読書を推進する「家読」運動に取り組

んでいます。

平成21年、家読先進地である佐賀県伊万里市から講師を招き、市内の校区公民館長、生涯学習課の職員と図書館職員とで、伊万里の事例を聞き、小郡市ではどのように推進していくかを考えました。

まずは「家読」の言葉を定着させることと、子どもにとって読書が大切である



ことを広めようと、校区公民館での講演会を2年間行いました。

そしてさらに理解を深めるため、平成24年度からは、のぞみが丘小学校、三國幼稚園、三國保育所をモデル校に指定して、教職員とPTAの協力を得ながら、事業をすすめています。

「小郡市子ども読書活動推進計画」と読書ボランティアとの連携

図書館の開館当初は3団体だった読書ボランティアが、活動人口の増加とともに増え9団体になりました。

活動が長くなればなるほど、会員のスキルアップの必要性が感じられるようになり、平成13年に図書館が事務局となつて、子どもの読書に関わるボランティアの連携と向上を目的とした「小郡市子どもの読書関連団体連絡協議会」を発足しました。

以来、子どもゆめ基金を申請して講座や講演会を開催したり、合同でおはなし会を企画するなど、横のつながりが深まりました。

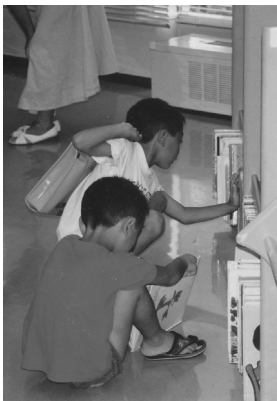
平成17年3月に、子どもに関わるすべ

ての人が連携をして、子どもの読書活動を推進しようと「小郡市子ども読書活動推進計画」を策定しました。平成22年には計画の内容を見直し、第2次計画をつくりました。この計画があることで、関係している市の部署や市民との連携で活動をより充実させることができます。

開館した頃は、私たちも子どもの読書に関することは図書館が取り組むべきことと思っていました。今では、子どもに関わるさまざまな立場の人々が手を取り合うことこそが、子どもの健やかな成長につながると思っています。

時代の流れとともに変わる社会のなかで以前よりずっと、子どもたちが生きづらいつながる環境が増えていっているように感じます。

そうであればなおさら、食事や睡眠と同じように読書が生活の一部となり、子どもが自ら生きる力を培うことができるよう図書館も支援していきたいと思いません。



いつでも、どこでも、だれでも

移動図書館車 しらさぎ号

移動図書館「しらさぎ号」の誕生

小郡市の移動図書館車「しらさぎ号」は、市立図書館の開館に先行して、昭和62年7月21日より運行を開始しました。

車は、熊本県立図書館が使用していたものを、昭和60年に小郡ロータリークラブから寄贈いただいた移動図書館車でした。

田畑でよく見かけ、小郡市民にはなじみの深い市の鳥を愛称とし、イメージカラーである緑を基調にしたデザインの塗装を施して「しらさぎ号」は誕生しました。

この年の夏は、毎日雲ひとつない晴天続きでしたが、しらさぎ号が店開きを始めてしばらくすると、いつも滝のような夕立が降ってきて、大慌てで本を片付けたことを思い出します。

当初市内12ヶ所だったステーションを、

現在では約2倍の25ヶ所に増やし巡回しています。

また、現在運行している車は平成14年3月に購入した3台目のしらさぎ号で、それまでの緑とクリーム色の外装を一新し、水色にカラフルな文字が入った明るい外装の車です。市立図書館の利用券と同じ、千葉県市川市在住のデザイナー押樋良樹（おおといりょうき）さんにデザインしていただきました。

いつも身近に、あなたのそばに

移動図書館は、市立図書館を利用するのが困難な人でも、同じように図書館が利用できるよう考えられたサービスです。

そこで、小郡市立図書館の移動図書館は、病院や高齢者施設も通常のステーションに加え、巡回しています。これは、病院や施設のご協力のもとに小郡市が行

っている特徴的なサービスのひとつです。現在は、丸山病院、本間病院、聖和記念病院とサンホーム小郡、池月苑の5施設を巡回しています。病院や施設に在る間は、小郡市に住んでいなくても、本を借りることができます。

丸山病院では、正面入口にしらさぎ号を停車して本の貸出などのサービスを行うほか、ブックトラック（稼働式の簡易本棚）に本を積んで病棟の中に入り、入院患者が病室の近くで本を選ぶことができるようなサービスも行っています。

病院や高齢者施設への巡回は、患者さんや入所者だけでなく、市立図書館まで足を運ぶ時間のとれない職員の方からも好評をいただいています。



病院での貸出し風景



移動図書館の魅力

移動図書館は、市立図書館まで出かけるなくても住まいの身近なところで、本を借りることができる便利さに加えて、もうひとつの魅力があります。

それは市立図書館以上に、利用する人同士、また図書館職員との会話がはずむところです。

借りていった本を互いに薦めあったり、久しぶりに会った人に近況を尋ねたり…、どこのステーションでも見かける光景です。

またカウンターがない分、職員にも話しかけやすい雰囲気があるからでしょうか、読んだ本の感想を聞かせてもらったり、読みたい本に関する相談も気軽にいただきます。

本を介してコミュニケーションが深まる、移動図書館の魅力のひとつです。



職場体験の学生

読書でビンゴ！

大半の子どもは、ひとりでは市立図書館まで行くことができません。そこで、移動図書館しらすぎ号は市内の全小学校にも巡回しています。

市立図書館の開館当初は、図書館から離れた地域の小学校にししか巡回していませんでしたが、図書館をより身近に感じてもらい、本に親しんでもらおうと現在は、市内全ての公立小学校を訪問しています。

一昨年度から小学校のステーションでは、秋の読書週間に、本を読んでカードの印が揃ったらプレゼントがもらえる、「どくしょ★ビンゴ」を開催しています。どこの小学校でも、この期間中はいつも以上に多くの子どもたちが利用します。

移動図書館で小学校の図書委員に、貸出や返却の手続きなど、図書館員の仕事を体験してもらったこともありました。

ちよつとしたきっかけで、本を手にとったり、今まで読んだことのないジャンルの本に挑戦したりすることがあります。移動図書館でも本と出会う機会を提供しています。

子どもたちの学びを支える

学校支援の取り組み

支援開始と中断

小郡市での学校図書館への支援と連携は、昭和62年の開館と同時に福岡県立図書館から出向し、奉仕係長に就任された白根一夫氏（福岡女子短期大学教授）の発案によるものです。白根氏は、図書館法第3条の図書館奉仕に「学校教育を援助し」と明記されていることと、当時小学校4校（小規模の2校は除く）、中学校4校に学校司書が正規職員（ほとんどが司書有資格者）で配置され、受入側の体制が整っているのが開始したということでした。

まずそこで市立図書館側は、学校貸出専用図書（児童・生徒、教師向け）を用意し、職員が学校を巡回してみました。が、学校図書館側に、支援を必要とする意識がなかったために相互の意思疎通がなま、結果的に棚上げ状態になってしまいました。

支援の再開―電算化と物流

数年経過する中で、一人職場である学校司書からは、蔵書点検の際の廃棄本の選書の相談や廃棄処理の労力的補助を市立図書館に求められるようになりました。

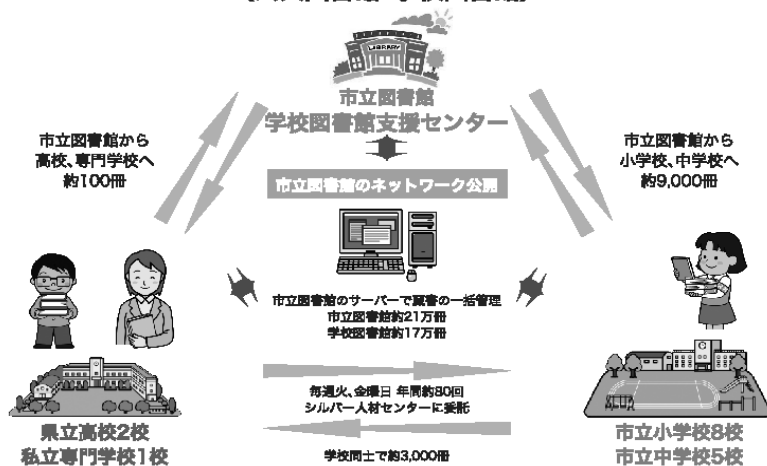
平成11年には学校図書館の蔵書の電算・ネットワーク化の協議が始まり、平成12年度は文部科学省の学校図書館資源共有型モデル地域事業により、小学校8校、中学校5校、県立高校2校、私立専門学校1校の蔵書を教育センターにサーバーを置いて一括管理し、約17万冊の図書を探索することが可能になりました。平成22年度からは市立図書館と学校図書館の電算システムを一体化し、市立図書館にサーバーを置いて機能向上を図っています。

平成14年度からは、学校、市立図書館と

教務課を週2回（年間約80回）巡回するモデル便を運行し、平成23年度では10,411冊（内小学校間が2,657冊）の図書が流通しています。

小郡市立図書館ネットワーク

（公共図書館・学校図書館）





学校司書研修会の様子(平成24年12月)

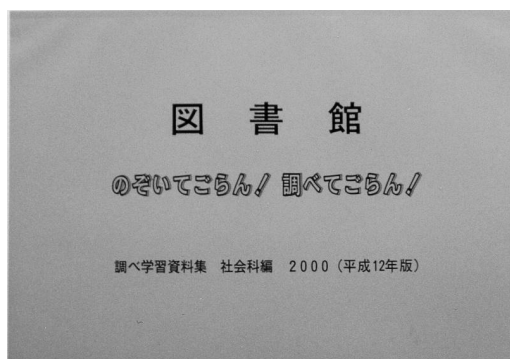
講師：埼玉県三郷市教育委員会読書活動支援員 福田孝子氏

学校司書との協働への動き

―資料集の作成

平成10年の学習指導要領改正で、平成14年度から「総合的な学習の時間」が新設されました。このような時期に、学校図書館と市立図書館の司書が協働して、『のぞいてごらん！調べてごらん！』調べ学習資料集社会科学編(小学校)、『平和の本ブックス』などの調べ学習の資料集を作成しました。

資料集の作成は、学校図書館と市立図書館の職員間の距離を縮めるのに役立つとともに、教職員全員に資料集を配布することで、学校図書館の存在を意識づける意味合いも込められていました。



調べ学習資料集

「のぞいてごらん！調べてごらん！」

教職員への働きかけ―啓発と研修

平成13年度から「図書館利用案内―総合的な学習(調べ学習)で図書館を有効に使うために」を市立図書館が作り、小中学校に配布して、学校図書館と市立図書館の図書の電算と物流のネットワークシステムなどを啓発しました。

また平成12年度からは市立図書館で、講師に塩見昇氏(大阪教育大学名誉教授)、佐藤学氏(学習院大学教授)、秋田喜代美氏(東京大学教授)、福田誠治氏(都留文科大学教授)などを招き夏休みに「総合的な学習の時間」の研修会を行いました。

学校図書館支援センターの設置

―教務課との新たな関係

平成18年度から、文部科学省の学校図書館支援センター推進事業の指定を受け、9月に市立図書館に小郡市学校図書館支援センターを設置しました。担当課は教務課で、指導主事の下、学校図書館支援スタッフ2名を置いています。支援スタッフは、2名とも学校司書を7年間経験したベテランの



「よろしくお願ひします。」
メール便の運行はシルバー人材センターに委託

司書で、実務的な支援もできる技術的な能力も持っているので、経験の浅い学校司書の相談に乗りながら、指導的な活動をしています。

市立図書館内に学校図書館支援センターを設置したのは、メール便を運行し物流の拠点であったことが最大の理由です。

メール便で流通する図書の数には毎年増えています。さらに利用を活性化させるには、学校図書館や図書資料を使った授業の活用実践事例を十分に紹介して、教職員研修等で意識改革を進める必要があります。

平成20年度で文部科学省の学校図書館支援センター推進事業は終了し、平成21年度は文部科学省の学校図書館の活性化推進総合事業の指定を受けました。平成22年度以降は市の単独予算で学校図書館支援センターを運営しています。

市立図書館と学校図書館支援センターのすみ分け―支援と連携

市立図書館の学校図書館担当が従来行ってきた図書館利用案内や調べ学習資料集作成、教職員研修などの業務を移管しました。

しかし、移動図書館車の小学校への運行、読み聞かせボランティアの研修、中学生の職場体験・経験10年教職員研修の受入などは市立図書館の学校図書館担当職員が引き続き行う一方、市立図書館見学、物流ネットワークの运营管理、学校図書館関係者合同会議、学校図書館・市立図書館合同視察などは市立図書館と学校図書館支援センターの協働運営となりました。

他に、学校図書館・市立図書館「図書館利用計画」の作成、ホームページの製作・管理、学校司書研修会(月1回)の開催な

どは学校図書館支援センターが設置されたことで、新しく加わった支援です。

このように学校図書館支援センターの設置は、市立図書館等の学校図書館の支援の拡大と教務課の参画による教育委員会としての一体的取り組みの実現に効果を表しています。

おわりに

学校教育支援は幅広い公共図書館のサービスの一分野であり、学校教育支援の範疇は、それぞれの図書館の地域状況と自治体の姿勢で決まります。公共図書館が地域住民の生涯学習を推進する中核的な社会教育施設であるという認識に立てば、同じ教育機関である学校を支援していくのは自然な考え方です。

小郡市の公共図書館と学校図書館の連携・協力は、システム面では全国的にも先進的と言われる一方、活用面では実践研究・調査報告等があまり見られません。その点の改善につながる体制強化を図りながら、「生きる力」を育む児童・生徒の育成に努めたいと思います。

もつと身近に

暮らしのなかに図書館を

小郡市立図書館では、昭和62年の開館より時代に合わせたさまざまなサービスや取り組みを行っています。

図書館レクチャーと各種講座

図書館を広く利用していただくには、本や読書に関心がない人にも興味をもってもらおう工夫が必要です。

そこで小郡市立図書館では年に数回、「図書館レクチャー」と名付けたミニ講座・講演会を開催してきました。

併設している野田宇太郎文学資料館の企画展にあわせた文学に関する講演会はもちろんのこと、市の文化会館との複合施設である利点を生かし、文化会館で行われる歌舞伎や文楽、落語公演の前に、その魅力や演目について専門家より学ぶ講座も開催しました。

日々の生活に密着した内容の講座もありました。「腰痛体操」「年金のはなし」「経済講座」などなど。

また、仕事のプロの話聞く企画では、ケーキ職人、バーテンダーの方をお招きして、現在の仕事を選んだ理由や一人前になるまでのプロセス、仕事の魅力などをお話いただきました。

図書館レクチャーから生まれ、定番になった講座もあります。「おりがみ教室」「絵手紙」。レクチャーではありませんが、平成元年から現在も続いている「手作り布の絵本講座」は人気の高い講座です。

一見するとどれも図書館とは関係がなさそうですが、どの内容に関する本も揃っているのが図書館です。レクチャーや各種講座では、会場でその内容に関連する本を展示したりブックリストを配布したりして、図書館の利用に結びつくようにしています。

自分に関心がないから図書館は関係がないところだと思っている方でも、興味がある内容の講座や講演会ならば、会場の図書館へ出かけてみようと思うかもしれません。そして、紹介された本を

手に取るのが、その後の図書館利用につながる可能性があります。

一冊の本がその人の人生を変えることもあると聞きます。図書館の存在価値は、本と人をつなぐことです。そのきっかけをつくるのも図書館の大切な使命です。



手作り布の絵本講座
福岡市在住の江口清美先生より
指導を受ける
(写真は平成5年度)





三市一町図書館協力協議会 20周年記念講演会（平成20年11月30日）
当時の国立国会図書館長 長尾真氏を講師に迎えて

三市一町（久留米・鳥栖・小郡・基山）の図書館協力

小郡市立図書館が開館した翌年の平成元年、互いに隣接している久留米市、鳥栖市、基山町と小郡市の三市一町の図書館では、協定を結び、よりよい図書館運営のために、週1回の配本車の運行、研修会の開催、職員同士の交流を行っています。

県をまたいで連携を行うのは、全国的にもめずらしい取り組みで注目を浴びています。

平成元年4月には、福岡県立図書館でも県内の図書館間で貸し借りをする資料を運ぶ配本車の運行が始まりました。それまで図書館間の本のやりとりは、すべて郵送で行っていました。図書館の予算のなかで、郵送費が確保できない図書館は、他館からの資料借用ができず、利用者へお断りする場合もありました。

また、郵送するための梱包などに時間を取られることもあり、県内の市町村立図書館から福岡県立図書館へ働きかけ配本車の運行が実現しました。

利用者への資料提供は一館の図書館だけでは、十分にできません。互いに連携しながらサービスを行っています。

時代が求めるサービス

時代の移り変わりとともに必要とされるサービスがあります。

開館当初から図書館を利用してくださっていた方々が高齢となり、図書館まで出かけるのが困難になり、お一人で暮らしておられることも増えてきましたので、平成15年からご希望の本を宅配するサービスを始めました。

また、就職難や雇用条件の悪化で、仕事に就くことが難しい時代になりました。そこで館内に、就職や労働問題の資料を提供する就業支援の書棚やコーナーを作り、本だけでなく就職情報誌や求人広告を集めています。

これらはこれからも、ますます求められるサービスになるでしょう。

そのほかにも、育児や教育、年金や保障、健康：暮らしのなかで起こるさまざまな問題を自分で解決するために図書館があります。

楽しむための図書館、暮らしを支える図書館。図書館は市民のみなさんに利用され育てられています。

わたしの小郡市立図書館
市民のみなさんからのメッセージ



遠くでも近い図書館

小郡市希みが丘 甘田 由紀子さん

このたびは開館二十五周年、おめでとうございます。私にとって図書館は幼い頃より身近なものでした。それは学校の図書室であったり、仕事の帰り道や自宅から徒歩で行けるものであったり。日常生活に密着した存在でしたので、小郡市に引っ越した時もまず図書館の場所を確認しました。

ところが悲しいことに私の住んでいる所からは遠く、頼ろうと思ったバスの本数も少ない。当時ペーパードライバーだった私は大変不便さを感じてしまいました。

しかし、移動図書館「しらすぎ号」を知り、その便利さに驚きました。ミニ図書館が二週間に一度、徒歩で行ける場所までやって来て、更にしらすぎ号にない本でもリクエストしたら持って来ていただけるということで、私の読書生活はこれまでと変わらなまままでいえることができました。今ではペーパードライバーを卒業し、本館で本探しを楽しみながら返却ポストを利用する日々です。

さて、本との出会いは人との出会いと同等の価値があると感じているのですが、その機会を増やすためにも本の紹介の場があれば、と思います。

予約の多い本も参考になります。人気のある本は、ほっといても読まれるもの。そこで、司書さんも利用者も使える「紹介広場」のようなものを作って、眠れる名作と出会えるチャンスを増やしていただければと思います。

これからの更なるご発展をお祈り申し上げます。

図書館と家族との二十五年

小郡市小郡 貢 正晃さん

開館二十五周年、おめでとうございます。

二十五年前、私は小学生でした。幼い弟妹たちを連れて、真新しい図書館に毎週のように通っていたのを覚えております。毎週土曜日にはなしコーナーで職員の方がされておられました、絵本や紙芝居の読み聞かせが楽しみでした。当時は一人五冊まで借りられたのですが、本四冊と紙芝居を借り、職員の方の真似をして家で弟妹たちに紙芝居を読んでいたのを思い出します。

新春かるた大会の募集告知を図書館で見、申し込んで出場したのもこの頃でした。そのときの写真が広報おごりの表紙を飾りました。母が喜んで、今でも大事にアルバムに挟んで保存してます。

中学、高校に通うようになると、ヤングアダルトコーナーと日本文学コーナーの常連となりました。趣味の本を注文し、雑誌の最新号を読みつつ、学校の宿題用の本を読む日々。当時の通学鞆には、趣味と勉強用の二種類の本が常時入っていました。

あれから月日が流れ、私も結婚し、子どもが生まれました。相手の家への挨拶、結婚式の招待状作成、スピーチの文章、子どもの名前、各種制度、すべて図書館の本で調べました。

子どもも昨年ブックスタートの月齢となり、妻と絵本の読み聞かせを行っています。いずれ大きくなったときに、一緒に歩いて図書館に行く日が楽しみです。

図書館は元気の源

小郡市小郡 田口 知子さん

図書館が開館して25年。もう25年も経ったのに、最初に館内に入って興奮した気持ちを、今でも良く覚えていいる。近くの棚から見て歩き、児童図書、小説、新刊書、私の好きな植物図鑑、天文に関する書はこの辺りだ。旅行案内もそろっている。夢中で見て廻った。

その時の気持ちを新聞に投稿し、掲載された。「待ちに待ったなど、気持ちを言い表せないくらい嬉しさ」と書いていたが、その思いは今でも変わらない。

簡単な読書ノートを書いているが、読む冊数は以前より、格段に増えた。

おはなし会を立ち上げ、子ども達や老人施設の方に読み聞かせをしているが、その本や紙芝居なども図書館から借りている。次はどの本を読んだら喜んでもらえるかと、本を選ぶのも楽しみのひとつだ。子ども達が面白かったと言った本は「図書館に置いてある本だから見てください。」と伝える。

相当数の本があるが、他地域の図書館からも借りてもらうことがある。リクエストした本が手元で読めるのは嬉しい。

植物学者の南方熊楠の採集した植物を見たいと希望した時は、東京にある国立国会図書館から借りてもらった。「国の財産であるから大切に」と注意書きがあり、初めてだったので、緊張し興奮しながら夢中で読んだ。ここがあるのでこそ、私の楽しみも衰えない。

さあ、図書館が呼んでいる。次はどんな本を借りようか。

図書館がある幸せ

小郡市小郡 行実 福祐さん

私が小郡市立図書館を頻繁に利用するようになったのは、会社を退職した15年程前からです。小郡市立図書館が10歳の時からになります。「本に育てられた」と自負する私ですが、それまでは街の本屋さんで買って読んだり、立ち読みで済ませ「図書館」の言葉さえも口にしな、まったく私にとつては無縁の存在でした。しかし、退職後は、小郡市立図書館が散歩コースに存在することもあるて散歩の途中に立ち寄ることとなりました。

まず感じたことは、当たり前のことなんでしょうが、各種の週刊誌や新聞、雑誌がとり揃えられ、情報量の多さに嬉しくなりました。その日からは隣の「スポーツ・ジム」に行くか「小郡市立図書館」に行くかの日課になりました。雨の日、風の日、暑さ寒さに関係なく快適な環境の中で「本」に没頭できる図書館は、まさに私のオアシスです。

私が小郡市立図書館を気に入っているところは、職員の方がいつも笑顔で優しく親切に対応してくださること、カウンター前の展示スペースは常にトピックに関連して展示され、利用者への心配りを感じ、うれしいです。また、掲示板の情報量も多く、時に私にとってキラリと光る情報を見つけたら重宝しております。

そんな訳で、感謝の気持ちもあって、私は借りた本やCD、DVDの定価の10%を貯金箱に入れ、ある程度貯まると、「小郡市社会福祉協議会」へ寄附しております。このことも図書館利用の楽しみとなっており、気軽に出入りの図書館に行ける我が身の幸せを感じている次第です。

小郡市民のために「小郡市立図書館」が永久に健やかであることを願っております。

未来の図書館員！

自分の小学校にはない本があったり、本をゆっくり読める所がたくさんあったりするので、ラベルで本がさがしやすい所が好きです。

立石小学校5年 古藤天音さん

市立図書館の好きなところは季節や、テーマにあわせて、かさりつけがあり、いろいろな本がしゃうかいされているところです。

立石小学校5年 平田菜々子さん

市立図書館には、昔話の本や学校にはない本がたくさんあるところが好きです。

のぞみが丘小学校4年 西田秋花さん

25周年おめでとうございます。いつもお世話になっています。これからもいろいろな本をお願います。

のぞみが丘小学校4年 中川茉莉さん

わたしは、たくさん本が借りられるのが好きです。なぜかという、物語を読むのが好きだからです。これからも物語を借りて読んでみたいです。

のぞみが丘小学校4年 村上知歌子さん

小郡市図書館のみなさん25周年おめでとうございます。本はいろんなことを感じさせてくれるのでとても大好きです。これからもよろしくお願います。

のぞみが丘小学校4年 山口裕未さん

私は市立図書館の小説(1Q探偵・シャーロックホームズシリーズなど)やマンガ(なかつシリーズなど)などレポートリーガというばいあるところが好きです。

三国小学校5年 村上芽以さん

図書館のいいところは、いっぱい本がありほかの本をみたくなりす。だから図書館が大好き。

三国小学校5年 渡邊知里さん

私の市立図書館の好きなところは、本の種類がいっぱいあってわくわくしながら読めるところです。まだ読んでいない本もあって、さがすのも楽しいです。

御原小学校5年 原 美鈴さん

ぼくは市立図書館の広くて本がたくさんあって、さがしやすいところが好きです。

御原小学校5年 松尾勇吹さん

学級で言いたいことがあった時に、
学習にあたり本をそろえてボックスに入れて
持ってきてくださるので勉強が
スムーズにできます。
とても感じています。
読書リーダーでは、思い出がたくさん
できました。小郡市立図書館のことが
より、みじかに、感じれて、よかったです。

味坂小学校 5年 佐藤華姫さん

なかなか、自分から市立図書館
まで遠いので、行けませんが、
学校に移動図書館「ひざぎ号」
がきてくれるので、とてもうれしいし、
たすかります。たのしい、本が、
おいてあり、いつもたのしみにしています。

味坂小学校 5年 佐藤美優さん

学校より1度に借りられる冊数が
多くて、たくさん本の種類をそろえて
いるところが好きです。小郡市にみんなが
集まるきっかけになるような図書館に
なってほしいです。

東野小学校 4年 大畑雄生さん

いろいろな種類の本がたくさんあって
10冊も借りられるのが好きなところで、だから
もっといろいろな種類の本をふやして、本が
いっぱいある図書館にしてほしいです。ぼくたちが
たくさんもずっと利用していきたいです。

東野小学校 4年 藤吉航佑さん

市立図書館は、いつも、
静かで明るくて、心が落ち着く
場所です。大好きです！

大原小学校 5年 野口純礼さん

私は市立図書館の1度に
10冊まで借りられるのが
好きです。学校の図書室では
2冊までしかかりきれないけれど、
市立図書館では10冊も
かりられてうれしいからです。

大原小学校 5年 和田詩織さん

ぼくは、読書リーダーをするま
えは、マンガばかり読んでいた
けど、とても厚い本も読める
ようになりました。😊

小郡小学校 5年 天本圭亮さん

最初はマンガばかり読んでいたけど、
読書リーダーをして小説
なども読むようになりました。
これからは外で遊ぶだけでなく、
図書館で本を読むの
もいいなと思いました。

小郡小学校 5年 太田康介さん

わたしは読書リーダーをやる前は、
自信がなかったけど、やってみておもしろ
いなあと思いました。それには、
みんなのときたさんの人たちがいて、
ドキドキしたけど、はっぴょうをしたら、
わたしは読書リーダーをやるおもしろ

小郡小学校 5年 黒木 暖さん

私は市立図書館のたくさん本が
ある所と、やさしくて、あたたかい感じの
館内が好きです。これからも、そんな
図書館であってほしいです。
小郡小読書リーダー
渡辺 耶呼

小郡小学校 5年 渡辺耶呼さん

おわりに

昭和61年4月、当時の中央公民館（現在の小郡市役所北別館）に「小郡市民ふれあい広場」設置準備室ができた日が昨日のことに思えるほど、あつという間の25年でした。

準備室に配属された職員4名は、当時全員が図書館に関しての知識がない素人でした。利用者として図書館に行ったことがあるくらいで、図書館の本がジャンル別に並んでいることは知っていても、それらがどのように分けられ整理されているのかもわからず、市立図書館の開館を盛り上げようと4月に始まった小郡ロータリークラブによる「一人一冊運動」で寄贈されてきた本の山を前に、図書の分類法が記された分厚い『日本十進分類法』をめくりながら悪戦苦闘の毎日でした。

しかしそのような作業は、建物の建設に関わる協議や開館時間をはじめとする図書館サービスに関する規則などの検討、家具や備品の発注、新しく購入する図書の選書など数々の重要な業務の合間に行なう作業でした。

10月から2名のスタッフが仲間に加わりましたが、慌ただしいことに変わりはありません。当時準備に関わる者全員の中の、四六時中図書館のことについていっばいでした。

そうして迎えた11月3日のオープン。25年のあゆみの年表ではほんの数行ですが、その行間には初めてのことに戸惑い悩み、そして市の一大事業に携わった緊張と喜びが詰まっています。

小郡市立図書館を無事に開館させ25年を支えたのは私たち、と申し上げたいところですが、6名の職員を研修で受け入れ図書館サービスや運営の基本をお教えくださった千葉県浦安市立図書館、職員を出向させ開館準備から運営が軌道にのるまでご指導いただいた福岡県立図書館、福岡県内外の先輩図書館員・図書館学の先生方には、基本設計から開館までさまざまな相談にのっていただきました。また、小郡ロータリークラブからは移動図書館車をご寄贈いただいたほか、建物が落成した折に本の運搬をお手伝いいただくなど数々の温かいご支援と励ましを頂戴しました。

そしてなんと育ての親は、日頃から小郡市立図書館を利用してくださっている市民のみなさんです。

図書館学の父と呼ばれるインドの図書館学者、ランガナタンが提唱した図書館の五原則のなかに「図書館は成長する有機体である」と記されています。市民のみなさんに利用され育てられる、振り返るとまさに図書館は成長する有機体であることを実感します。

25歳になった小郡市立図書館を、市民のみなさんとお祝いしたいと思います。

おめでとう、25歳！

おごおりのとしょかん 25周年記念版

平成 25 年 3 月発行

小郡市立図書館

〒838-0142 福岡県小郡市大板井 136-1

TEL 0942-72-4319 FAX 0942-72-3501

<http://www.library-ogori.jp>

